

第 7 回 GF-TADs アジア太平洋地域運営委員会における
阿部外務大臣政務官ステートメント
(要旨)

平成 25 年 7 月 18 日

●本日は、日本を代表して本会合において挨拶する機会を頂き、感謝いたします。

●この枠組みの下、国際獣疫事務局(OIE)と国連食糧農業機関(FAO)が関係国や国際機関の成果を結集し、効果的な動物の感染症対策に取り組んできていることに敬意を表します。

●私は、4月に帯広畜産大学及び同大学の原虫病研究センターを訪問しました。同センターは、アジアで最初の OIE コラボレーティングセンターであり、OIE リファレンス・ラボラトリーです。また、同センターは、インド国立馬研究所と twinning 関係にあり、両研究所が人材育成と科学的知見の共有のために協力しています。

●日本の研究機関によるこのような取組をうれしく思うとともに、日本として、途上国のコミュニティが動物の感染症への強じん性を高め、人間の安全保障を確保する能力強化を支援すべきとの思いを新たにしました。この関連で、我々は、これまでも、国内の教育・研究機関と連携してきており、JICA を通じたものも含め、研修その他の技術協力プロジェクトを実施してきています。

●関係者の皆様の長年の御尽力の結果、2011 年に牛疫の撲滅が宣言されました。我が国の蠣崎千晴博士が先駆者となった牛疫ワクチンの開発に代表される技術開発、検疫・防疫体制の強化、そして、個体識別管理などが重要な役割を果たしました。

●同様に重要なのは、コミュニティ・レベルで、適切な飼養方法や、感染症が発生した場合の対処法等に関する十分な知識や能力を向上させることです。感染症への短期的解決でなく、持続的開発を目指すべきです。

●最後に、グローバリゼーションは、人間の生活を豊かにする一方で、感染症が世界的に拡散するリスクを高めています。農村や都市の環境変化が、SARS(重症急性呼吸器症候群)などの新興感染症を引き起こしています。人や農畜産物のグローバルな移動が、鳥インフルエンザを蔓延させます。しかし、グローバルな協力体制が、その爆発的流行(パンデミック)を未然に防止し、人と動物の生命、生活の安全を保証する鍵だと信じています。

●日本政府は、越境性感染症の防疫のためのグローバルな協力体制づくりに共に貢献していきます。

(了)